

## 被災者を孤立させない！

### — 「出会い・つながり・交流」で支援しましょう —

原発事故から6年目、国や行政によって進められている住宅補助うちきりで、被災者の「帰還」の流れがおこっています。一方、被災地では子どもだけでなく、大人も含む甲状腺がんの発症率が上がっています。子どもの甲状腺がんが一般の100倍に達するという報告もあり、被災した子どもたちとその家族はたいへん厳しい環境にあります。滞在型保養の家「カラッポのおうち」は、被災地に帰還せざるを得ない家族の一時避難場所として、ますます重要になるにちがいありません。

しかし、「311受け入れ全国」に登録があるのは、まだ「カラッポのおうち」だけです。こんご、経済力などの違いから避難を続ける家族、「帰還」を選択する家族が、それぞれが孤立していくことが何より心配です。そのため、今年の総会では「被災者を孤立させない」を大きな目標としてかかげます。当日は、今年の活動で、知りあうことができた埼玉の避難者のおかあさんなどもお招きし、お話も聞き意見交換し合えるようにしたいと思います。皆さんの参加を呼びかけます。

#### カラッポの会第4回総会

日時：12月18日(日)13時30分～15時30分

場所：ときわ会館

(埼玉県さいたま市浦和区常盤6丁目4-21)

内容：活動と決算の報告／活動方針と予算ほか

\*総会は、会員以外の方もオブザーバー参加できるオープン形式でおこないます

### まだ使えます、冬・春の保養「交通費補助」

今年の夏8月の保養から、カラッポの会は保養に来た家族に交通費を補助しています。しかし、この夏に利用を申し込まれた方が、台風などでキャンセルされたことからこの補助金にまだ余裕があります。冬から春に保養を計画している被災者家族は、どうぞ「交通費補助」を使ってください。

子育て世代家族の家計は、被災者も支援者も同じように厳しいと思います。被災地からの交通費(ガソリン代、高速代など)はばかになりませんか？家族保養は「ぜいたく」とあきらめていませんか？子どもだけのキャンプ保養募集は冬、春は少ないのですがまんしている家族はありませんか？暮れ、正月休みは、お勤めが休みになる大人が子どもと過ごせる家族保養チャンス！埼玉の近田舎で心と体を休め、免疫力アップしてください。

この補助は「キッズリフレッシュ21基金」に事務局が応募し、保養交通費、お家の改善(外トイレ設置)に対して認められ、来年7月までに事務報告する予定で取り組まれています。



## 塩谷町（栃木）、西郷村（福島）「相談会」に参加しました

### 【栃木県塩谷町の相談会】

9月10～11日の2日間、21団体50人余りの参加で、塩谷（しおや）町見学会、保養相談、学習会がひらかれました（「受け入れ全国」主催）。カラッポの会は2名で2日目の保養相談会にブース参加。終了後「受け入れ全国」共同代表早尾貴紀さんの講演を聞きました。



塩谷町は放射性指定廃棄物の最終処分場設置地域として名前があがっています。道路の両側に廃棄物処分場の建設反対ののぼりや看板がたくさん立っていて、町民が強く反発していることがよくわかりました。とくに、水源となる山が建設対象地になっていることに、町の職員の方などに案内された参加者は「実際に見て驚いた」と話していました。

栃木県で初めての相談会には、塩谷、矢板、那須塩原、日光、宇都宮だけでなく、茨城からも被災家族が相談に来ていました。栃木県にも原発爆発事故でプルーム（放射能雲）が流れたことが確認されています。放射能被災規模の大きさをあらためて思い起こしました。東京経済大学准教授早尾さんの講演は研究されている「近代国家社会学」のお話でしたが、ご自分の親子被災、避難、移住のご経験に照らして、わかりやすくお話しされました。被災者支援活動をすすめる私たち自身がどんなことをしているのか、その意味を深く考えさせられる良いお話でした。なお、終了後、カラッポの会での学習会について直接お願いしたところ、ご承諾いただきました。

栃木県では「とちのみ保養応援団」が「保養による放射能ダメージ回避」を活動の柱に取り入れ熱心に活動されています。「とちのみ応援団」をつうじて「カラッポのおうち」においてになった家族もありました。

### 【福島県上白河郡西郷村の相談会】

11月5～6日福島県で冬の保養相談会が上白河郡西郷（にしごう）村（県南）と福島市（県北）2か所の会場で行われました。カラッポの会では5日のみですが2名がブース参加しました。家族避難経験のある西郷村の佐藤富男村会議員が保養の活動を支え、応援したいと「311受け入れ全国」に申し出もあって白河市に近いこの村の商工会議所を会場として初開催されたものです。

相談に来たのは30人ほどでしたが、保養の経験がある家族で熱心さが伝わり、相談にのる私たち自身、被災者の最新の事情を知ることができました。7組の相談を受け「カラッポのおうち」を使ってみたい、続けてほしいと言う方などいらっしゃって、大変張り合いがありました。また、時間に余裕があった分、ブース参加しているほかの団体と交流、「カラッポ」の活動に生かせる取組についてたくさん伺えました。とてもよい相談会になりました。

翌日の福島市相談会には参加できませんでしたが、「子ども被災者支援基金」の方が案内チラシ等を預かってくださり、来場した60組の相談者のなかで「支援基金」ブースに来た方に配布、紹介していただきました（カラッポの会は今年から「子ども被災者支援基金」のパートナー団体に応募登録しています）。





## 親子で森林自然体験会、とても盛況でした



10月29日、もう一つの「子どもゆめ基金」助成事業「親子森林自然体験会」を、長瀬矢那瀬地区森林で行いました。8月開催予定していましたが、応募人数がそろわなかったり天候不順で合ったりして延期、この日の開催になりました。11人の子どもと大人5人がツリークライミングで森林リクレーションを堪能。

秋晴れ最高の日より、3家族が大きなくぬぎの樹に、交代で登り、紅葉の森林とひとつになって「人と自然とのきずな」を親子で確かめ、学び合いました。「とても楽しかった」「また来たい」と感想をいただき、開催して良かったと思いました。

カラッポの会の自然体験活動は「保養の家」を広く知っていただき、被災者と支援者ともに呼びかけ、参加者を募り、つなぐ、補助活動です。「続けてほしい」という被災者の意見をいただきました。幸い、森林リクレーション指導の第一人者の方々に理解を寄せていただき、成果を上げましたが、会の力も試されます。会計の裏付け、広報募集事務、当日のボランティア体制などを整えてすめなくてはなりません。二年にわたる活動の経験で課題もわかってきました。会員、支援の皆様の協力にあらためて感謝し、継続に向けて、いっそうのご支援をお願いいたします。

## 親子里山自然体験会、たくさんご参加感謝します



10月15日、カラッポの会主催「里山自然体験会（稲刈り）」が行われました。子ども7人、大人18人の参加があり「稲刈り」「結束」「ハザ掛け」の仕事を親子体験しました。子どもたちから「楽しかった」「できるようになった」などそれぞれ感想を聞くことができました。秋空の下、親子ともに田んぼの仕事を身近にしてもらえたと思います。翌週22日、晴天だったので脱穀体験を募集したところ、子ども1人、大人2人が応募しオプション体験会も行われました。

この体験会は、5月29日の「田植え体験会」とあわせ、国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成事業として行われたものです。目標として子ども20人に体験してもらう計画でしたが、延べ17人の参加にとどまり課題を残しました。この経験にふまえ、自然体験の輪をさらに大きくしていきたいと思います。

できたお米の一部は「カラッポのおうち支援米」として会に寄贈されます（11月5～6日、相談会のときに福島で活動する被災者支援団体「いのちの水」「昭和横丁」に30キロずつお届けしました）。また、無農薬、無化学肥料、不耕起で育てられたこのお米は、欲しいという方にお分けし、いただいたカンパ金がカラッポの会活動に役立てられています。

## 2月11日(土)午後カラッポの会主催「学習会」を行います



### —「保養のおうち」づくり、これから…を考える(仮題)—

被災から6年目。放射能被害は、被災地でのがん等疾病の多発、死亡率上昇という具体的形をとって表れ始めました。一方では、長い避難や健康配慮生活に被災者の疲れが重みをましています。国、行政施策がこの時を見はからっていたかのように、冷たく、厳しいものにかわっているのも深刻です。この時期の住居支援の打ち切りは、被災者への強烈なダメージとなるにちがひありません。とくに、子育て家族の孤立、家庭崩壊がたいへん心配されます。

いまこそ、被災者支援の力がためられます。埼玉県でたった一つの保養の家「カラッポのおうち」をしっかり維持し、子どもたちを守り育てようとする人々に利用されるようにしなければならないと思います。

今度の学習会には、早尾貴紀さん(東京経済大学准教授)と昨年もお招きした吉田千亜さん(「ルポ 母子避難」の著者)お二人にお話をさせていただく予定です。早尾さんは被災者であり、父であり、支援者として保養活動ネットワーク「311受け入れ全国」の共同代表でもあります。

保養によって子どもたちとその家族を守る、という「親子保養」は、被災地への帰還を余儀なくされた被災者の「とまり木」「いのちづな」として、ますます注目される時がきました。しかし、日本では(世界でも)先例のない放射能被災者の〈保養〉による「心身治療」生活スタイルは手探り。被災者、支援者がともに考え、ともに切り拓く、はじめの一歩の学習会としたいと思います。

場所は、毎年総会会場としてお借りしている WithYou さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)視聴覚室です。放射能被害から子どもたちを守る志を持つ会員のみなさま、大人たち多数のお越しをお待ちします。

\*\*\*\*\*

#### ★大人の気持ち

十一月六日(日) NPO法人昭和横丁志田篤さんにお話を伺いました。帰りに川内村など被災地を通って帰ろうと思いい、どのような道順をとればいいのか教えていただきました。すずめられたのは、川内村から富岡町に抜けるコースでした▼川内村人口は三〇〇〇人余り。村が現在帰還者とみなしているのは一六〇〇人余。しかし、車からは人家に人影を確認できません。昼食をとろうと復興対策として建てられた「公設民営商業施設」に立ち寄りしましたが、食堂は十月で撤退、営業していません。コンビニの店員さんが「温泉内の食堂なら、きょうやっているはず」と教えてくれました▼日帰り温泉「かわうちの湯」、場所は村役場のすぐそば。駐車場50台はうまって、中に入ると人がいっぱい。休憩場も食堂も満席。しかし一目で、観光客ではなく村の方たちが利用している…:あ、ここにきていたのか、と合点しました▼「帰還宣言」を最初に発表した川内村。子どもも少ないながら見かけ、家族ぐるみの帰還が本格的にはじまっていることがわかります。しかし、満員の日帰り温泉なのに、あまりにも静かで、だれも言葉少な▼食事を終えて隣の富岡町に入ると、フレコンパック山積み。の帰還困難、居住制限地域。志田さんは「もどるか戻らないか、どうしたらいいか私も分からない。助ける方も疲れますよね。私も助けられていることに疲れました」と言い、相談会に来たお母さんも「もう、放射能のことを考えることに疲れました」と言っていた:▼日帰り温泉に来て静かに食事をして川内村の方々の姿を思い起こすたびに、その言葉がよみがえり、胸が痛んで仕方ありません。

長瀬やなせ「カラッポのおうち」の会・事務局 ◆連絡電話(FAXも) 045-933-1792(管理人 杉村長世)

◆郵便振込口座 00250-9-136022 カラッポの会 ◆ゆう貯口座 10210-3511241 杉村葉子

◆e-mail [karapponouti@gmail.com](mailto:karapponouti@gmail.com) ◆ホームページ検索は「カラッポのおうち」で検索

※ 管理人への連絡はできるだけメールか郵便(226-0021 横浜市緑区北八朔町1842-4)にてお願いします。